

小論文

京都大学 経済学部 (前期・論文 I)

<総括>

試験時間 180 分 総解答字数 3000 字以内+75 行

2つの文献を読み、その議論内容を検討することを通じて、自らの見解を述べるというものだが、最後の設問では、対話的な議論を構成するという、これまでの京大経済論文試験の歴史のなかでかつて一度試みられたことのある形式を採用している点が特徴的である。設問1および2では、〔A〕は対話篇の要約、〔B〕は密度の高い文章の要約となり、異なる解答要領が必要となった。また、設問4の対話の構成では、対話としての形式の維持よりも、議論のかみ合いに工夫が求められ、総合的な難易度については、過年度と大きな異なりはないと考えられる。

<課題文の分析>

大問番号	論文 I
内 容 (主題)	「自然」と「自然状態」—— 政治社会のあり方
出 典 (作者)	〔A〕 プラトン『ゴルギアス——弁論術について——』(加来彰俊訳、岩波文庫) 〔B〕 ジョン・ロック『統治二論』(加藤節訳、岩波文庫)
長短・ 難易等 前年比較	長短 (短い・変化なし・長い) 難易 (易化・変化なし・難化)

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
I	課題文	学部系統的	設問1	要 約	800 字以内	〔A〕の登場人物の1人、カリクレスの主張を要約する。設問3を想定しつつ、その「自然」論に焦点をあててまとめたい。
			設問2	要 約	1000 字以内	〔B〕におけるロックの主張を要約する。設問3を想定しつつ、「自然状態」という概念の内容が明らかになるようにもしたい。
			設問3	説 明	1000 ~ 1200 字以内	カリクレスの言う「自然」とロックの言う「自然状態」の共通点、相違点について論述する。共通点はあまり多くない。相違点はていねいな説明が必要になる。
			設問4	論 述	75 行以内	カリクレスとロックが対話をしたと想定して、その内容を具体的な対話で表現する。設問3で明らかになった共通点、相違点をふまえて、任意の具体的な主題を設定して展開することが望ましいだろう。

※出題形式は「テーマ・課題文 (英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」